

岡 田 宮

—(宝永4年) 1707年 貝原益軒書—

第14号

平成4年7月吉日

発行 岡田宮社務所

北九州市八幡西区岡田町1番地
郵便番号806

電話 621-1898

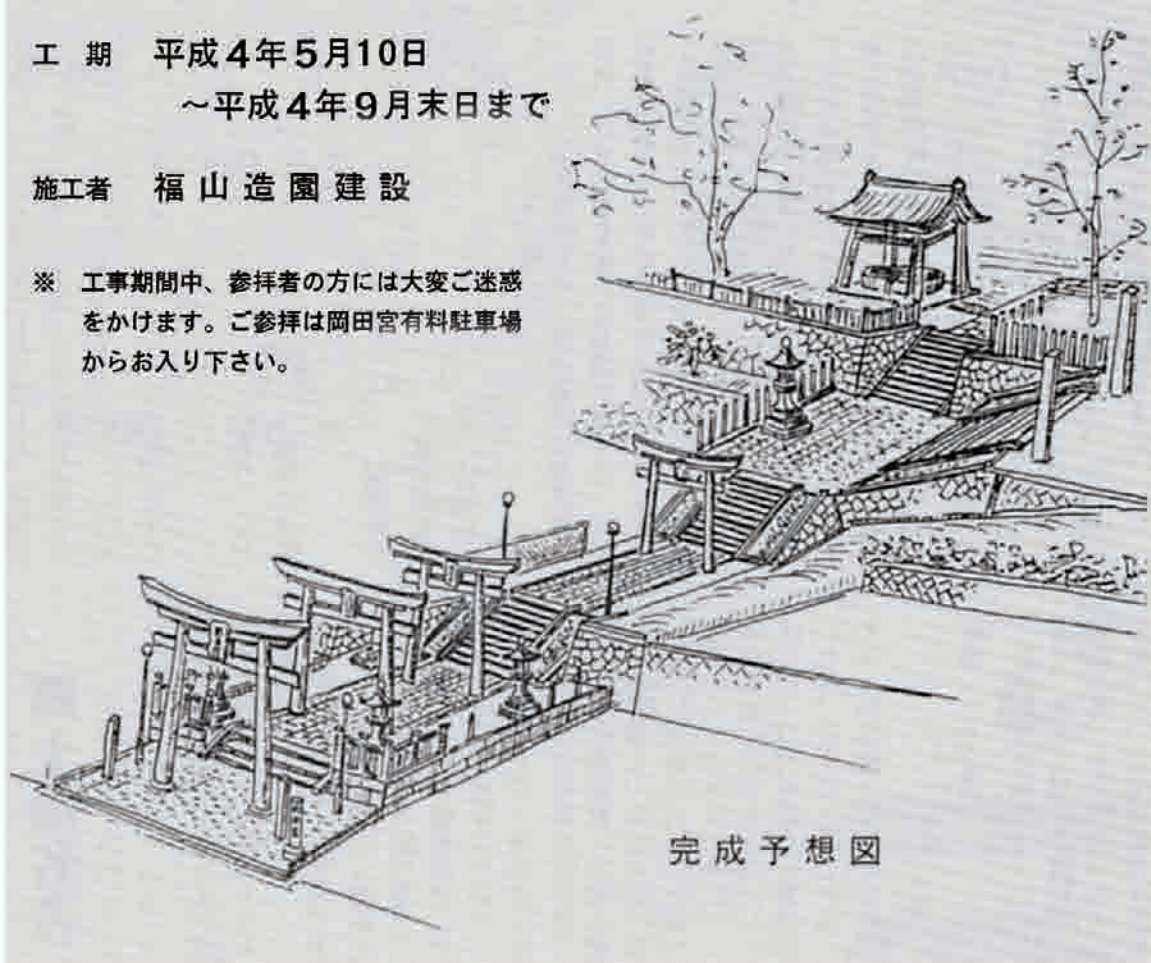
FAX 621-5330

岡田宮参道改築工事

工 期 平成4年5月10日
～平成4年9月末日まで

施工者 福山造園建設

※ 工事期間中、参拝者の方には大変ご迷惑
をかけます。ご参拝は岡田宮有料駐車場
からお入り下さい。



完成予想図

神社なぜなぜ 問答

(その13)



問 お盆は仏教の意味合いが濃い行事と思っ
ていましたが、実は神道と深く関係している
という話を聞きました。実際、どうなのでしょう
か？

答 日本古来の行事と言ってよいでしょう。

仏典に『盂蘭盆経』があります。その経によ
れば、仏弟子目蓮が、餓鬼道に墜ちて苦しむ
母親を救う方法を尋ねたところ、仏様は七月
十五日に百味の飲食五菓等を具し、十方の仏
僧に供養すればよいと答えた。教への如くす
ると、なるほど願が成就した。以来、この日
に仏僧に供養すれば、七世の父母をして餓鬼
の苦からのがれしめ、現在の父母は寿命百年
無病ならしめるといふ。

この仏教儀礼に基づく盂蘭盆会が、日本に

伝来したのも大変に古いことでした。斉明天
皇の三年七月十五日「須彌山の像を飛鳥寺の
西に作る。且千欄盆會を設けたまう」（日本
書紀）とあるのが初見です。その後、宮中の
行事としても発展して行きました。

さて、その盂蘭盆会が民間に伝わり、今日
の盆行事になったかと言うとそう簡単には説
明できません。

日本の各地に伝わる盆行事では、精霊棚を
設け迎火を焚いて、先祖の御霊を家に迎え、
丁重に饗応するという意識が強く、仏僧に供
養するということは見られません。

また、盆の期間には盆踊りなどが盛んに行
われ、死者の霊を慰める意識が強く残ってい
ます。まさに「たまたまつり」と言ってもよい
ものです。盆が終われば、精霊舟やナスやキュ
ウリで作った馬に乗せて送火を焚いて、御先
祖様を送ります。来年のお盆を楽しみにして
正月とお盆は、わたしたちにとって欠くこ
とのできない最も大事な行事です。単純に、
正月は神様、盆は仏様と考えていますが、い
づれも日本古来の大切な「まつり」の時のな
です。

今日の盂蘭盆会は、そうした古来の行事が
基盤になり、発展展開したもので、仏教儀礼
を源流と見ると本末顛倒になります。

郷土地名考

⑭

城山（しろやま）

城があったから城山は全国に散在している。
この場合の城は大方、中世末期の山城が平城
である。

黒崎の城山も山城で、近世の城郭ではな
かった。一六〇四年（慶長九）、黒田長政の
臣、井上周防守の知行地となり豊前国境の警
備にあたった。洞海湾はこの山裾まで迫って
いた。一六一五年（元和一）、一國一城令で
廃城になった。「城の端々はいままで成就せ
ずといえり」と伝えている。

小字名に御屋敷、北城の腰、東城の腰、南
城の腰、城石、城山など。現在は屋敷に統一。
ここに黒崎城再建の計画が生まれ、完成予
想図が天守のある城郭だったため、郷土史団
体が史実に反すると反対してもめた。築城期
成会は一万人を超える署名を集めて議会陳情
したが、否決の見通しが強く取り下げ、城攻
めは一時休戦となっている。

紅梅（こうばい）

戦国時代花尾城は山口の大内家の支配下に
あり、麻生上総介重郷が城主のとき、大内の
養女であった京都随一の美女、紅梅姫を側室
に賜った。以来重郷は紅梅姫に入れあげ、こ

れを妬んだ正夫人の柏井は紅梅の恋文を偽造、重郷に中傷した。怒った重郷に追い出された紅梅は一四九五年（明応四）八月四日、無念の自害。

まもなく恋文偽造を手伝った家来は紅梅姫の幽霊にとりつかれて発狂、悶死。つぎに幽霊は正室の娘、八重姫に乗り移り、恨みの声をあげ短刀で柏井に斬りかかった。七日七夜、柏井は死んだ。紅梅姫の幽霊は月毛の馬にまたがり、月夜の中天を駆けめぐった。

後悔した重郷は紅梅の追善供養をしたが改まらず、地藏堂を建立して収まった。これを紅梅地藏といい、地藏堂は戦時中に焼け地蔵は八幡西区藤田の浄蓮寺に安置、紅梅姫の墓は紅梅公園にある。



戦災で焼失、再建された紅梅地蔵

夏越祭

(七月二十九日)

夏越の大祓神事を七月二十九日午後六時より執り行います。

社頭に茅の輪を設け、その茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄とを招来するといふ古式に則った夏越祭を厳修致します。

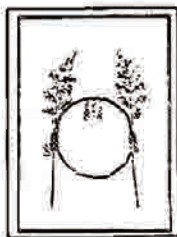
ご参拝の方は上記の形代に御家族の住所、氏名、年齢とを書いて、各自の息を吹きかけ初穂料を納めお参り下さい。

ご参拝の方には「お札」と「茅」を授与致しますので、魔除として、玄関に奉斎して下さい。

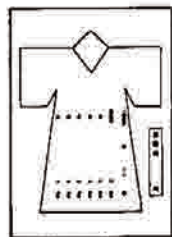
当日、お参り出来ない方は前もって社務所で形代をおあずかり致します。

産土神 守護

お札



形代(表)



形代(裏)



七五三祭は、子どもの成育にともない折目、切り目に神社にお参りして、いっそうの息災成長を祈る行事です。

三歳の祝いを髪置、五歳の祝いを袴着、七歳の祝いを紐落などと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行なわれた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行なわれます。なお、平成四年の七五三の年齢は、下記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

- 三歳 平成二年生
- 五歳 昭和63年生
- 七歳 昭和61年生

※年齢はかぞえ年です。

平成四年度

岡田神社崇敬会

ご入会のご案内

謹啓 氏子、崇敬者の皆様方には益々御健勝の事とお喜び申し上げます。

常々、当社の護持運営につきましては平素より格別の御賛助を賜り厚く御礼申し上げます。

当社も五十年に一度の記念事業が無事終了いたしました。ご社殿も立派になり、参拝者も非常に増え、御神威の発揚、唯感謝の至でございます。

現在、当社では毎朝、日供祭（神前に御食事を差し上げる神事）を御奉仕して、多くの方々の健康と繁栄等を祈願しておりますが、氏子総代一同協議の結果、より多くの氏子崇敬者にお誘い申し上げようと此の度、崇敬会を結成する事に相成りました。そして、より一層充実した神社運営を計り、又、次世代を担う子供達の育成の為、誠に恐縮に存じますが、深いご理解とご賛助をお願い申し上げます。 敬具

岡田神社宮司 波多野 直之
岡田神社総代会会長 末益 友之助
他総代一同

一、目的

岡田神社の護持運営、神社祭典の一層充実。秋季大祭の奉納子供相撲、稚児行列等。どんど焼祭（せんざい）、餅つき、餅まき、福引き等）

一、特典

岡田神社で毎朝行われる日供祭（神前に御食事を差し上げる神事）

に於いて、奉賛者の一年間の健康と繁栄等を祈願致します。又、岡田神社の最も貴い祭事であり、秋季大祭に特別ご招待致します。

一、加入方法

岡田神社社務所又は神社総代にお申込み、又はお問い合わせ下さいませ。

奉賛金は年、一口千円です。お一人何口でも結構です。（この奉賛金は任意であります）

※ 奉賛金は岡田神社氏子総代会で責任を持って運用させて頂きます。

口座番号 郵便局
福岡五十一二八八 筑邦銀行黒崎支店 普通預金一五三一七〇一名
岡田神社崇敬会

神道と古典

わが国の古典で一番古いものは、古事記・日本書記です。これらがまとめられたのはおよそ一千三百年ほど以前のことですが、そのまとめられた理由というのは、こうです。その頃の日本には、大陸からの文化がどんどん入って来ていて大そう流行したために、そのままにしておくのと、正しい日本民族の考え方や言い伝えなどが分からなくなってしまう恐れがありました。そこで、民族の正しい考え方や言い伝えを整理して残し、のちの世の人があやまらないうように、「日本人」を見失わないようにするという強い自覚のもとに書かれたものです。

古事記は、天武天皇の仰せのまに、稗田阿礼という人の暗誦したものを、太安万侶という人が書きあげて、

和銅五年正月二十八日に元明天皇の献上したものです。これは全部で三巻あり、そのうちの上巻には、天地の初めから、神々のお働きになられたことや、特に天照大御神さまを中心とする神々の世界から、この日本の国を治めたもう皇室のはじまりまでが物語られています。

日本書記は、これも元明天皇の御代に、それ以前から多くの家に伝わる記録などを整理し、わが国最初の国史として編さんされたもので、これにはすでに大陸の文化の影響が多く入っています。これは全体で三十巻あり、そのうちの巻一と巻二がそれぞれ神代の巻の上・下になっており、その内容はやはり天地の初めから第一代神武天皇のすぐ前のところまでが述べられています。古事記は一人の人が物語っていますので、その本文は大体ひとすじに通っていますが、日本書記の方は歴史の書であるために、本文のほかに各種の異なった説などもあわせて書いてあって、参考となることながら数多くふくまれています。

右の二つの本のほかに、奈良時代以前の古典としては「万葉集」という歌集があります。万葉集は二十巻から成り立ち、歌は全部で四千五百首あり、時代は仁徳天皇の皇后といわれている磐姫皇后の御歌の時代から淳仁天皇の御代にいたるまでの約四百年間のものをおさめて、特に、あらゆる立場の人の歌があって、特に日本人の豊かな人間性と、その心を素直にあらわしたすぐれた歌が多くあります。これをまとめられた人は、大部分は大伴家持ではないかと考えられています。

編集後記

古事記・日本書記・万葉集などの古典を通じて言えることは、古代人の心が精神的公書にあまり侵されていないため、皇室を中心として日本民族が本当によくまとまっていた姿が見られるということ。この古代日本人の心と生活の営みが、そののち長い間守り続けられ、この国に何事がある時は、いつも純朴な古代の日本民族の心がかえりみられました。そして現在があるのです。こう考えて来ますと、神道という祖先から子孫へと受けついで「日本人の心」を書き残した古典というものを、私どもはあらためて見直さなければならぬと思います。

●現在、神社の参道階段の改築工事を行っています。崇敬者の方がお一人でご寄進をして下さいました。お年寄りの方々にもお語りしやすいように、階段の勾配をゆるくし、横幅を4mに広げます。

●九月には、りっぱな参道が完成しますのでお楽しみにお待ち下さい。
●好評の「神社なせなせ問答」皆様のたくさんのおたよりをお待ちしています。

●平成四年度の岡田神社崇敬会の申し込みを受け付けています。
●ご入会いただく方々の一年間の家内安全、繁栄等を毎朝ご祈願いたします。多くの方々のご入会をお待ちしております。

●祝祭日には国旗を掲げましょう。
●一日、十五日には神社にお参りしましょう。